

令和 8 年 2 月 5 日
世 田 谷 保 健 所
健 康 推 進 課

5 歳児健康診査の実施について

1 主旨

国は、子どもの情緒・社会性の発達状況や育児環境等の把握を行い、就学前までに必要な支援につなげることができるよう、5 歳児に対して健康診査を実施するとともに、地域における必要な支援体制の整備を行うことを掲げている（別紙 1）。

このため、保健所は、健診実施及び地域全体で切れ目のない支援を共通認識のもと実現できるよう、令和 6 年度に、両地区医師会・小児科医会との協議の場を設置し、子ども・教育・障害分野関係所管も参加し議論を進めてきた。

本議論を踏まえ、令和 8 年度より、5 歳児健康診査を実施する。

2 国の 5 歳児健康診査に係る支援事業の概要

（1）対象者

5 歳頃の幼児（標準的には 4 歳 6 か月から 5 歳 6 か月）

（2）実施方法

原則として集団健診

（3）健診内容

発達障害などの早期発見（精神発達の状況、言語発達の遅れ等）、育児上問題となる事項、必要に応じ、専門相談等

（4）健康診査を実施する担当者

十分な経験を有し、幼児の保健医療に習熟した医師、保健師、管理栄養士、心理相談を担当する者等により実施すること。

（5）留意事項

健康診査の実施に当たっては、健康診査の結果、発達障害等（発達障害等の疑いを含む。）と判定された幼児について、就学前までに必要な支援につなげることができるよう、関係部局や都道府県等とも協力しながら、地域における必要な支援体制の整備を行うこと。

（6）補助率

- ・区市町村補助：1／2
- ・補助単価：5,000 円／人

3 区における検討経過

令和6年6月より、両地区医師会・小児科医会との意見交換会を7回実施し、対象者や手法、幼稚園・保育園との情報共有方法、フォローアップ体制等について、子ども・教育・障害分野関係所管とともに議論・検討を重ねてきた。

＜主な共有・検討事項＞

第1回：令和6年 6月 国マニュアル・通知等の共有及び課題抽出

第2回： 12月 集団健診の流れ・回数の検討

第3回：令和7年 3月 5歳児健診に関する区民アンケート調査の内容検討

第4回： 6月 問診票・診査票の内容検討

第5回： 7月 健診対象者・手法の検討

第6回： 10月 二段階方式による健診の実施方法及び通知内容の検討

第7回：令和8年 1月 集団方式による健診【二段階目】の流れと役割分担の確認

4 区における5歳児健診の実施方法（令和8年度）

対象となる年齢の子どもすべての保護者にアンケートによる健診【一段階目】を実施し、「子どもの強さと困難さアンケート（SDQ）」の結果から支援の必要性が高いと判断した子どもを対象に集団方式による健診【二段階目】を実施する。

（1）保護者アンケートによる健診【一段階目】

① 対象者

令和8年度中に5歳となる子ども 6,200人程度

② 方法

「子どもの強さと困難さアンケート（SDQ）」に加えて、運動発達、目・耳・発語、精神神経発達等に関する項目を入れた保護者アンケート（別紙2）を実施する。

（2）集団方式による健診【二段階目】

① 対象者

保護者アンケートによる健診【一段階目】のうち、「子どもの強さと困難さアンケート（SDQ）」の結果から支援の必要性が高いと判断した子ども

想定対象者数 500人

※既に療育に通っている場合は健診対象外とする。

※幼稚園・保育園等に通っていない子どもは、保護者アンケートの結果に関わらず、集団方式による健診【二段階目】の対象とする。

② 方法

集団方式による健診

健診前に、保護者の同意を得た上で、幼稚園・保育園等での集団生活における子どもの様子を聞き取る。

③ 内容

医師による診察、保健師・心理士等による保健指導

- ・身体発育状況
- ・栄養状態
- ・精神発達の状況
- ・言語障害の有無
- ・育児上問題となる事項の確認（生活習慣の自立、社会性の発達、しつけ、食事、事故等）
- ・その他の疾病及び異常の有無

- 5 集団方式による健診【二段階目】後の健診結果の共有及びフォローアップについて
 集団方式による健診【二段階目】にて発達に課題があると考えられた子どもについては、幼稚園・保育園等が日々の保育に活かすことができるよう、保護者の同意を得た上で、健診結果を共有する。また、子どもの発達に関する相談先として、公益財団法人世田谷区保健センターや世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」等とも情報を共有し、地域におけるフォローアップにつなげる。加えて、子どもが安心して楽しく小学校生活を送るために、幼稚園・保育園等や療育における子どもの状況について学校・教育委員会に情報連携されるよう調整を進めていく。

6 令和8年度の経費（概算）

歳出 59,257 千円

- ・委託料 46,600 千円

（SDQアンケートの電子媒体での回答・集計・結果分析、版權使用料、妊産婦・乳幼児健診を含む各種健診コールセンター業務）

- ・報償費 9,822 千円
- ・需用費 2,727 千円
- ・役務費 108 千円

歳入 16,000 千円

- ・国補助：母子保健衛生費 5歳児健診支援事業 補助率 1/2

7 その他

保護者アンケートによる健診【一段階目】として実施するアンケートの内容や集団方式による健診【二段階目】の対象基準、地域のフォローアップ体制の強化及び情報連携のあり方等について、両地区医師会・小児科医会や関係機関、庁内関係所管と実施結果を踏まえた検証を継続的に行い、健診の改善・充実に向けた検討を進める。

8 今後のスケジュール（予定）

令和8年 4月～ 保護者アンケートによる健診【一段階目】の開始
 7月～ 集団方式による健診【二段階目】の開始

令和8年度概算要求額 8億円（一）【令和5年度補正創設】

事業の目的

- 乳幼児健康診査については、母子保健法により、市町村において「1歳6か月児」及び「3歳児」に対する健康診査の実施が義務付けられている。また、乳児期（「3から6か月頃」及び「9から11か月頃」）の健康診査についても全国的に実施されている状況となっている。こうした中で、新たに「1か月児」及び「5歳児」に対する健康診査の費用を助成することにより、出産後から就学前までの切れ目のない健康診査の実施体制を整備することを目的とする。
- ※ 本事業による財政支援に加え、必要な技術的支援や体制整備に係る財政支援を行うことにより、「1か月児」及び「5歳児」の健康診査の早期の全国展開を目指す。

事業の概要

◆ 対象者

- ① 1か月頃の乳児 及び ② 5歳頃の幼児

◆ 内 容

地域における全ての上記①及び②に該当する乳幼児を対象に、健康診査の実施に係る費用について助成を行う。

① 1か月児健診

実施方法：原則として個別健診

健診内容：身体発育状況や栄養状態などの評価、身体疾患のスクリーニング、こどもの健康状態や育児の相談等

② 5歳児健診

実施方法：原則として集団健診

健診内容：発達の状況（身体、精神、言語などの発達状況）などの評価と早期支援、育児上の問題となる事項、必要に応じ、専門相談等

◆ 留意事項

- （1）①の健康診査の実施に当たっては、委託先の医療機関と連携を密に行うとともに、健康診査の結果等の情報の活用などにより伴走型相談支援の効果的な実施につなげる。また、健康診査の実施が虐待の予防及び早期発見に資するものであることに留意し、こども家庭センターなどの関係機関とも連携しながら、必要な支援体制の整備を行うこと。
- （2）②の健康診査の実施に当たっては、健康診査の結果、発達障害等（発達障害等の疑いを含む。）と判定された幼児について、就学前までに必要な支援につなげることができるよう、関係部局や都道府県等とも協力しながら、地域における必要な支援体制の整備を行うこと。

実施主体等

◆ 実施主体：市町村 ◆ 補助率：国1/2、市町村1/2

◆ 補助基準額：① 6,000円／人（原則として個別健診） ② 5,000円／人（原則として集団健診）

5歳児健診のフォローアップ体制のイメージ(案)

231122_こども家庭審議会
成育医療等分科会資料

概要

- 多くの市町村では、3歳児健診(法定健診)以降、就学時健診まで健診がない。乳幼児への切れ目のない母子保健の提供のため、社会性発達の評価、発達障害等のスクリーニング、健康増進を目的とした、**5歳児健診の標準化・体制整備が必要**。
(4～6歳児健診について、公費負担を実施している自治体は15%(令和3年度母子保健課調べ))
- 特別な配慮が必要な児に対して**早期介入を実施**することで、**保護者の課題への気づきや生活への適応が向上**する可能性が指摘されており、**5歳児健診により学童期の不登校発生数が減少**したという研究結果もある。
- 5歳児健診において所見が認められた場合に、**必要な支援につなげる地域のフォローアップ体制が重要**。

5歳児健診

今年度、研究班で健康診査票・問診票を作成し、関係団体に意見照会中。今後、成育医療等分科会で議論。

問診・診察・評価

- ・ 情報集約(過去の健診結果、家庭環境、保育所情報等)
- ・ 発達等の評価
- ・ 困り感の把握
- ・ 保護者への説明 等

【健診に関わる職種の例】
小児科医師、保健師、
心理職、保育士、教育職、
作業療法士・運動指導士 等

専門相談

保護者との共有

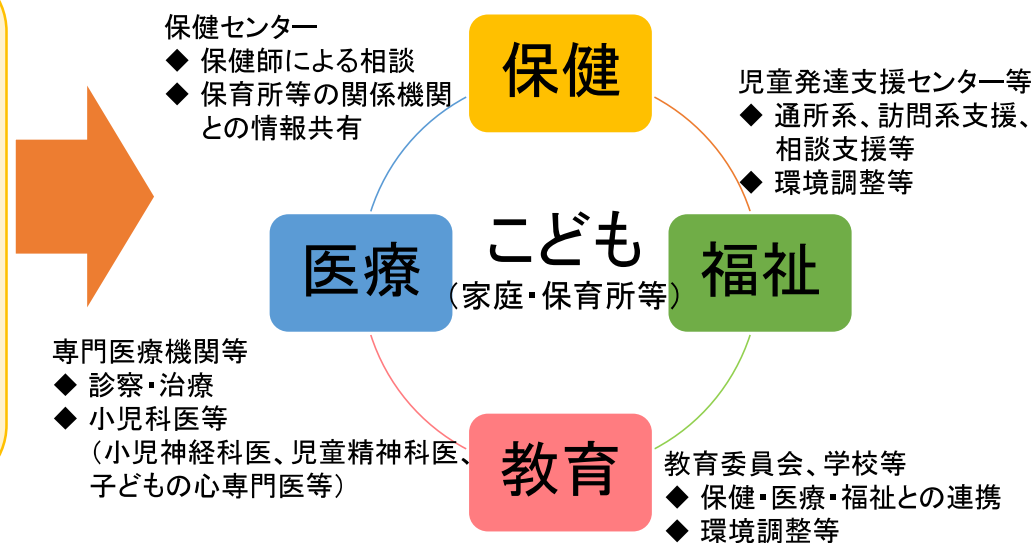
- ・ 健診後の不安の傾聴
- ・ 保護者の気づきを促す
- ・ 多職種による助言

健診後 カンファレンス

多職種による評価、
支援の必要性の検討

地域のフォローアップ体制

地域のリソースを使った支援体制(受け皿)を構築



地域のフォローアップ体制に係る課題

- **医療のキャパシティ強化** ⇒ 発達障害の診察ができる医師の養成、医療機関の体制強化。診療報酬についても別途検討
- **福祉との連携強化** ⇒ 児童発達支援センターと母子保健の連携強化、福祉の支援体制強化(障害報酬を含む)
- **教育との連携強化** ⇒ 保育園、幼稚園、学校等、教育委員会等との情報共有、保健・医療・福祉と連携した個別の支援・配慮

別紙 2

5歳児健康診査 保護者アンケート（案）

フリガナ				生年月日：令和	年	月	日生
お子様の氏名				身長	cm	体重	kg
住所：				電話番号：			
ご記入者氏名：				続柄：			
現在通園している園：							
経過観察中の病気等：							
療育機関の利用：なし ・ あり（通所先							

あなたのお子さんのここ半年くらいの行動について、当てはまる回答欄に○を1つつけてください。

質問内容	回答欄		
	あてはまらない	まああてはまる	あてはまる
1. 他人の気持ちをよく気づかう。			
2. 落ち着きがなく、長い間じっとしてられない。			
3. 頭がいたい、おなかがいたい、気持ち悪いなどよくうったえる。			
4. 他のこどもたちと、よく分けあう（おやつ・おもちゃ・鉛筆など）。			
5. カッとなったり、かんしゃくと起こしたりすることがよくある。			
6. 一人でいるのが好きで、一人で遊ぶことが多い。			
7. 素直で、大体は大人の言うことをよく聞く。			
8. 心配ごとが多く、いつも不安なようだ。			
9. 誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、いやな思いをしているときなど、すすんで助ける。			
10. いつもそわそわしたり、もじもじしている。			
11. 仲の良い友達が少なくとも一人はいる。			
12. よく他の子とけんかをしたり、いじめたりする。			
13. おちこんでしずんでいたり、涙ぐんでいたたりすることがよくある。			
14. 他の子どもたちから、だいたいは好かれているようだ。			
15. すぐに気が散りやすく、注意を集中できない。			
16. 目新しい場面に直面すると不安ですがりついたり、すぐに自信をなくす。			
17. 年下の子どもに対してやさしい。			
18. よく大人に対して口答えする。			

19. 他の子から、いじめの対象にされたり、からかわれたりする。			
20. 自分からすすんでよく他人を手伝う（親・先生・子どもたちなど）。			
21. よく考えてから行動することができる。			
22. 他の人にたいしていじわるをする。			
23. 他の子どもより、大人という方がうまくいくようだ。			
24. こわがりで、すぐにおびえたりする。			
25. ものごとを最後までやりとげ、集中力もある。			

（子どもの強さと困難さアンケート（SDQ））

（当てはまるものに1つ○をつけてください）

1. 3歳児健康診査で異常等を指摘されましたか。	（いいえ・はい）
2. （前の設問で「はい」と回答した人に対して、）医療機関で精査や治療等を受けましたか。	（はい・いいえ）
3. 片足で5秒以上、立つことができますか。	（はい・いいえ）
4. ボタンのかけはずしができますか。	（はい・いいえ）
5. お手本を見て四角が書けますか。	（はい・いいえ）
6. はっきりした発音で話ができますか。（力行・サ行がタ行に置き換わったり、不明瞭な発音がありませんか。）	（はい・いいえ）
7. 目のことで気になる症状はありますか。	（いいえ・はい）
8. 聞き間違いが多いですか。	（いいえ・はい）
9. しりとりができますか	（はい・いいえ）
10. じゃんけんの勝ち負けがわかりますか。	（はい・いいえ）
11. 言葉で自分の要求や気持ちを表し、会話をすることがうまくできますか。	（はい・いいえ）

→子どもの強さと困難さアンケート（SDQ）の結果、ご心配の項目が多かった場合、区（保健福祉センター）にて実施する健診をご案内します。

健診をより効果的に実施するため、健診前に、保育園・幼稚園・認証保育所等での集団生活におけるお子さまの様子について聞き取りを行います。

つきましては、同意の有無について、以下のいずれかにチェックをお願いします。

区と所属する園（所）との情報共有について

☐ 同意する

☐ 同意しない